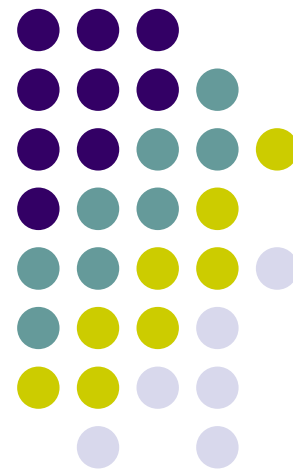
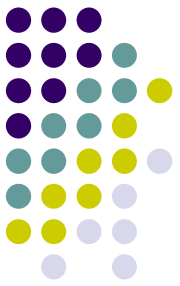


創造的都市論レビュー

仙台印刷団地クラスター革新プロジェクト '2008
2008年8月1日(金)
菅野洋介



急速な都市化の経済的・社会的衰退化のメカニズム



【経済・産業構造】

経済のグローバル化による
生産システム変化
開発途上国の浮上

産業減少
雇用減少

都市経済衰退

【社会・都市構造】

人口の過剰集中
環境汚染
住宅不足・老朽化
交通混雑

都市の空洞化
貧困深化

都市の環境悪化

**都市の再生の
必要性**

1980年代の都市再生と文化都市政策



製造業衰退による雇用問題を解決する
都市の環境・経済の関係を見直す必要性

創造産業の創出を目的とした、都市の
イメージ転換への集中的投資の必要性

都市環境を回復するため、安定的な生活が保障できる環境（安定性・便利性・快適性）を保つため、都市基盤施設を再整備・拡大

製造業の空洞化を埋めるための雇用創出、文化施設の経済効果、文化遺産への観光による経済効果など、文化による経済の創出に力を入れる

既存の製造業産業（大量生産システム）から小規模企業群のネットワークによるフレキシブルな生産システムへの移行

経済のグローバル化に伴う産業政策における中央政府の役割の低下、
地域・自治体レベルの産業政策の重要性の高まり

- 都市空間と経済との結びつきの強調に伴う、文化と都市再生の関係への関心の高まり
- 芸術分野と情報技術が結びつき、そうした産業が小企業群の集積として形成される

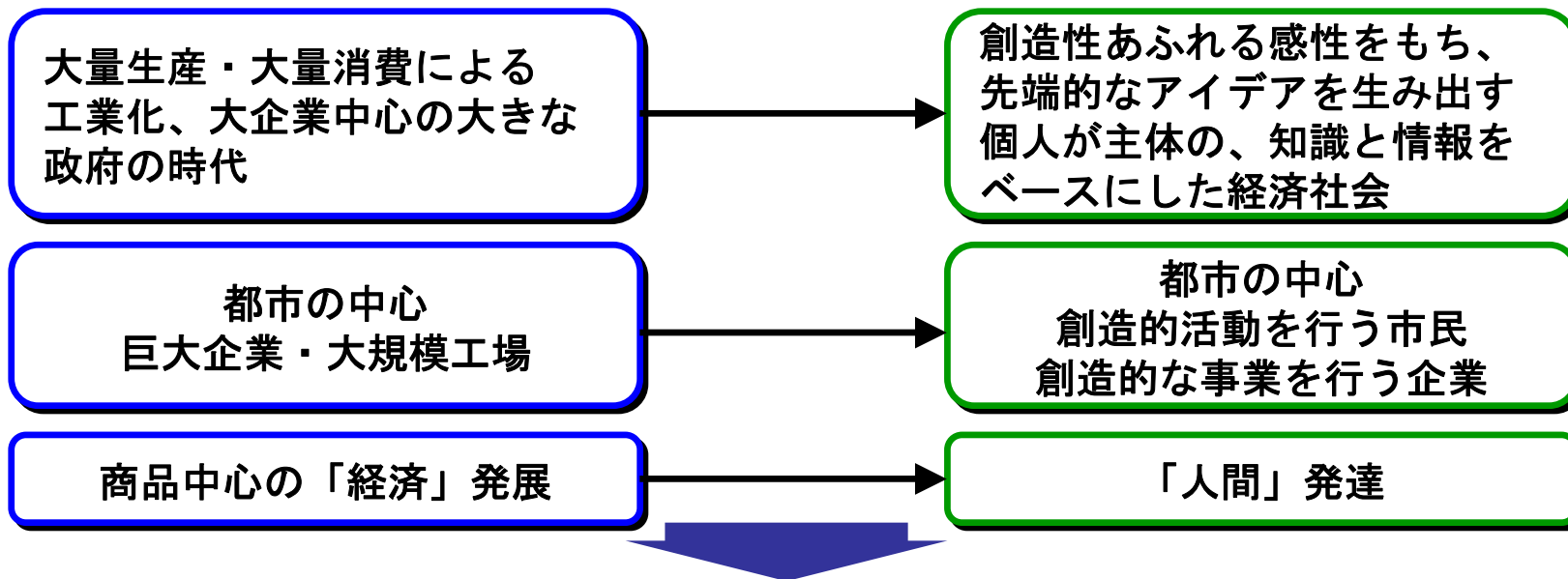
1990年代以降の創造都市概念の台頭



【20世紀】

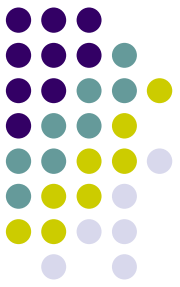
発展の概念の問い直し

【21世紀】



【都市政策の中心への文化と創造性の移行】
芸術文化の創造性と、先端科学技術の創造性の、2つの『創造性』の間で相乗効果が働く空間や場のあり方を考える必要性

創造都市とは？



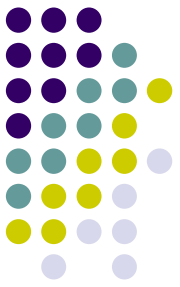
「人間の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備えた都市」

(佐々木, 2001)

創造都市の要素

- ①現代芸術のエネルギーが街中に満ちあふれ、市民が存分にそれを愉しんでいる
- ②文化芸術の創造性を産業に活かした創造産業群の発展が都市経済のエンジンになり、雇用と富を生み出している
- ③市民の自治意識の高さ（創造的なアイデアを刺激する環境がある）
- ④人類普遍の価値ある行動を提起する力量に富んだ都市

創造都市論(Landry,2000)



基本的な問題意識

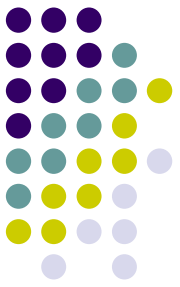
都市問題に対する創造的解決のための「創造的環境＝創造の場」をいかに作り上げ、それを運営していくか、そしてそのプロセスをいかに持続的にしていくのか
⇒産業空洞化と財政破綻の中で、国家の財政的支援から自立して、どのように新しい都市の発展の方向を見出すか



芸術文化がもつ「創造的なパワー」を生かして社会の潜在力を引き出そうとする都市の試みに注目

「創造性」は、知識とイノベーションの中間にある「芸術・文化と産業をつなぐ媒介項」

- ①脱工業化都市において、マルチメディアや映像・映画や音楽、劇場などの創造産業が製造業に代わってダイナミックな成長性や雇用面での効果を示す
- ②都市の創造性にとって、経済、文化、組織、金融のあらゆる分野における創造的問題解決とその連鎖反応が次々と起きて既存のシステムを変化させる流動性が重要
- ③文化遺産と文化的伝統がグローバル化の中にあっても都市のアイデンティティを確固たるものとし、未来への洞察力を高める
- ④地球環境との調和を図る「持続可能な都市」を創造するために文化が果たす役割が重要



創造都市論(Florida,2002)①

創造階級の登場と勃興

超創造的中核

①コンピュータ・数学、②建築・エンジニア、③生命・自然科学
および社会科学、④教育・訓練・図書館、⑤芸術・デザイン・
エンターテイメント・スポーツ・メディアの各専門職種

創造的専門職

①マネジメント、②ビジネス・財務、③法律、④保険医・
技師、⑤セールス・マネジメントの各専門職種



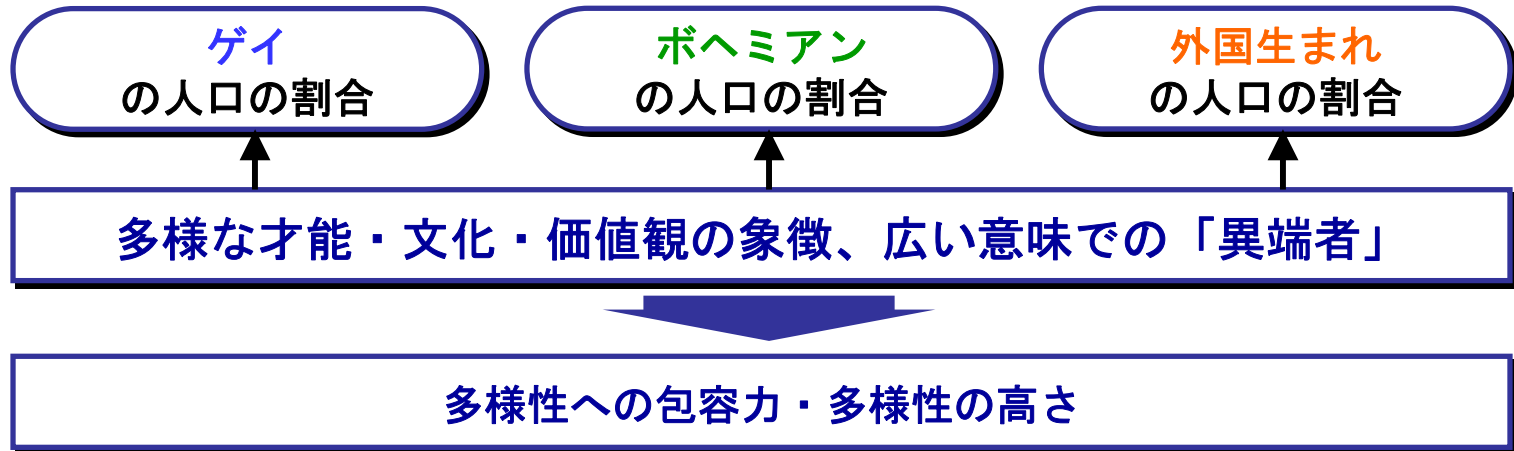
■地域再生のカギは工場誘致ではなく、創造的人材の地域への誘致である



創造都市論(Florida,2002)②

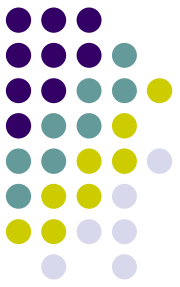
基本的な問題意識

成長著しいハイテク産業に成功している都市の要件（社会指標）とはなにか



- 創造階級が好んで居住する都市や地域は、寛容で、多様性があり、創造性に対してオープンな場所である
- 産業クラスターの発展に必要な多様な人材を集める、母体としての都市の重要性

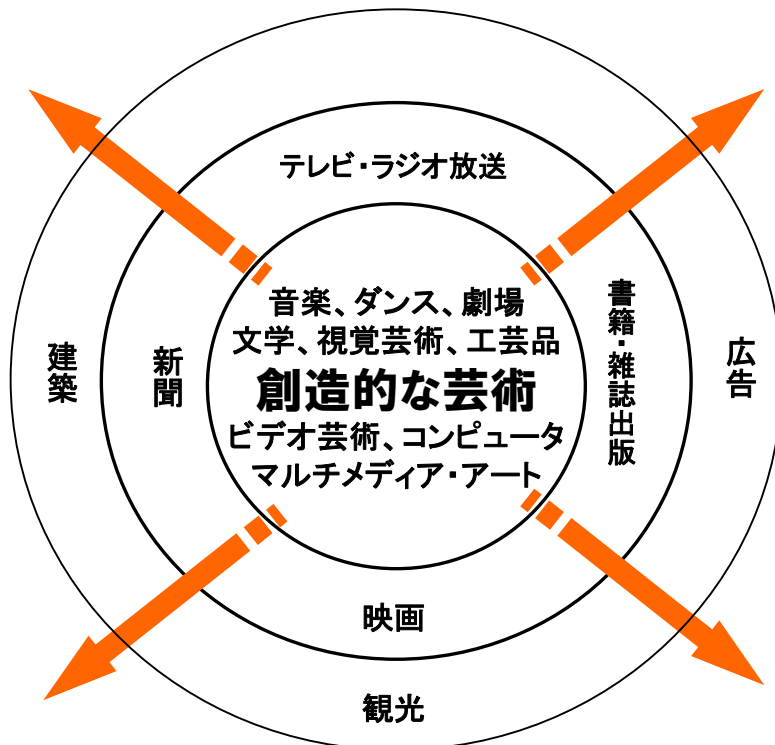
文化産業の概念と構造に関する理論 (Throsby, 2002)



■文化産業が対象とする『文化』

- ⇒人類学・社会学の枠組み：ある集団に共有された態度や信念、習慣、価値観、風習
- ⇒機能的な枠組み：人間生活における知的・道徳的・芸術的側面を伴って行われる人々の活動や、その活動の生産物

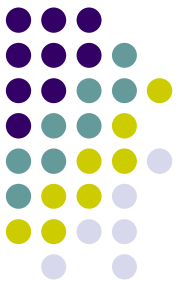
■文化産業同心円モデル



- 中核：オリジナルの創造的な芸術活動
- 内側：文化的商品として評価できる生産物を創り出す産業分野
(中核に比べ相対的に文化的財・サービスの割合が低くなる)
- 外側：実質的に文化領域以外で運営されているが、その生産物がある程度文化的文脈を有している

中心に創造的なアイデアを置き、放射線状にアイデアがより広い産業部門に拡散していき、様々な種類の生産物を生み出す

都市の文化環境の増進は、資本移入や新たなビジネス創出に望ましい場として都市のイメージやプロフィールを改善するのに重要である



文化産業の発展要因

文化芸術の活動

文化産業に従事する人の創造性に刺激を与え、文化産業に建設的な影響を与える。

文化政策

特定の場所の公共的なイメージを高め、外からの観光客の増加や、より大規模な投資家、高所得の技能労働力を引き付けるための地域のイメージ・権威を高める。

社会環境

社会的要因：相対的に高所得者層の人々が好む環境（文化の多様性、寛容さ、開放性等のソフト・ハード面）を含む。

技術的・組織的基盤

文化産業に従事する人材の育成・維持のためのインフラとなる（専門労働力のコミュニティ、技能訓練機関等）

制度(組織)的厚み

企業、金融機関、業界団体、地方政府、労働組合などの諸組織が量的に存在し、相互作用している。

文化産業
の発展

出所：後藤(2005)より作成



創造都市論における重要論点

文化産業

- その地域に適した分野（戦略産業）の選択
- 地域の文化資源・文化活動、産業間の連携などを考慮し、地域の専門家、経済関連団体、企業家、公共の主体などの議論を通じた戦略産業の選択

事業内容

- 文化的資源をいかに産業に結びつけるか
 - 地域の特性を活かした差別化戦略の開発
 - 莫大な費用を要する施設の建設、運営
- ⇒ 既存施設の改修や拡張を通じたリニューアールオープンなどの活用



創造都市論における重要論点

主体プレイヤー参加の制度化

- 市民の関心・意識をいかに喚起し、合意を形成していくか
- 商工会議所、大学、開発公社、民間開発業者、土地・住宅所有者、一般市民などが、都市再生の目標設定・計画樹立・執行過程に積極的に参加する

中核的機能(企業, 施設機能, 団体等)

- 中核となり、推進力や需要としてクラスターを牽引していく主体の存在

推進体制

- 主体の役割をどう位置づけるか
- 民間主導による公共機関の支援



創造都市事例の主な分析視点

- 都市・産業の歴史的経緯・成り立ち
- 創造都市としての特徴
 - －地域性と事業内容の関係性
 - －文化産業的要素
- 主体プレイヤーの役割
- 行政支援の役割
- 創造都市化による効果
 - －都市としての再生
 - －都市の創造産業および関連産業への波及効果
- 創造都市化の主たる要因